

### 第3回浜田市総合振興計画審議会 会議録

日時 平成27年6月30日(火)  
午後2時～午後4時50分  
場所 浜田市役所(4階)講堂

[進行/会長]

| 1 開会、会長あいさつ (午後2時)                          |   |
|---|---|
| 会長  | <p>定刻になりましたので、只今から第3回「浜田市総合振興計画審議会」を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、お忙しいところをご出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>前回は、5月21日に第2回審議会を開催しまして、「元気な浜田づくり市民委員会」の開催結果について「速報」という形でご報告いただき、その後、協議項目について意見交換を行ったところでございます。</p> <p>本日は、100人委員会の最終報告に基づいて「基本構想の骨子案」についてご審議いただくこととしております。</p> <p>そして、この基本構想の骨子案に関連して、前回に続いて協議項目についての意見交換を概ね4時30分までのところで行いたいと考えております。</p> <p>このため、委員の皆様からご意見をいただき、基本構想の骨子案について方向性を出したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、本日の欠席委員について事務局からお知らせ願ひします。</p> <p>あわせて、配付資料の確認も願ひします。</p> |
| 地域政策部<br>次長                                 | <p>まず、欠席委員の報告ですが、西井委員、来原委員、一法師委員、築谷委員、中村委員、花田委員、柿元委員、7名の委員が欠席です。岩谷委員につきましては少し遅れるということで連絡いただいております。</p> <p>次に、資料の確認です。(資料について確認)</p>   |
| 2 議題  |   |
| (1) 元気な浜田づくり市民委員会の実績について、及び(2) 基本構想の骨子案について |   |
| 会長  | <p>それでは、議事進行させていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>まず、(1) 元気な浜田づくり市民委員会の実績についてと、本日の協議事項であります、(2) 総合振興計画基本構想の骨子案についての2件を一括して事務局から説明をお願いします。</p>   |
| 企画係長  | <p>資料1をご覧ください。前回「元気な浜田づくり市民委員会(100人委員会)」の速報として、中間報告させていただいたところです。</p> <p>今回は、最終報告が委託業者から出てまいりましたので、報告させていただきます。後ほど、資料2で基本構想の骨格となる部門別体系を説明し、これについてご審議いただきたいので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>資料1ですが、前回の速報から最終の実績報告ということで体系は一部変わっております。前回の速報では、7つの部門に「定住」という部門がありましたが、これについては各部門にそれぞれ定住の施策を組み込みさせていただいて「定住部門」はやめ、「防災・防犯」部門を「建設」部門から独立し、7つの部門として変更しています。</p> <p>また、部門を並び替えて、①「健康福祉」、②「教育文化」、③「環境」、④「産業経済」、⑤「建設」、⑥「防災、防犯」、⑦「地域振興」という7部門のくりになっております。</p>   |

|              |   |
|--------------|---|
|              | <p>それと、右には区分を示しています。ここは前回ありませんでしたが、委託業者と相談して追加しています。</p> <p>(部門ごとに概略を説明)</p> <p>以上、100人委員会の最終まとめについてご報告申し上げます。</p> <p>続きまして、資料2の基本構想の骨子案として、部門別の施策体系案について説明します。まだ骨格の形ですが、今日はこの7つの部門と、各部門の区分についてご提案させていただきます。</p> <p>それでは、資料1を基に、行政の方で少し組み換えさせていただきましたので、その経過を資料2でご説明します。</p>  |
| 企画係員         | <p>資料2の7つの部門別体系を1枚めくっていただくと、A3判カラーの用紙がありますので、部門ごとに整理した考え方を説明させていただきます。</p> <p>まず①「健康福祉」の部門ですが、右側に現計画の区分を載せています。今の計画では「1健康・福祉部門」としまして、施策大綱を1医療、2健康づくり、3子ども、4高齢者・障がい者、5地域福祉の5つの施策大綱としています。</p> <p>その左は、100人委員会の実績報告の内容になっています。太枠の中は資料1で説明した100人委員会の成果をそのまま載せています。その区分を基に最終的に施策大綱案として整理したものが、一番左の「施策大綱案」となっており、「1医療」から「6地域福祉」までが新たな6つの施策大綱案としてお示ししています。そして、一番下に現計画からの変更点を簡単に記しております。</p> <p>(以下、各部門について説明し、特に「⑤建設」と「⑥防災・防犯・消防」、「⑦地域振興」の部門名の変更の理由等を説明)</p> <p>以上のように100人委員会の実績を踏まえて整理し、一枚目の「部門別施策体系(案)」としてお示しさせていただきます。</p> |
| 企画係長         | <p>今、これまでの100人委員会のまとめの流れと、今回の骨子案にまとめるまでの流れをお話しました。</p> <p>ここで、現在の総合振興計画の冊子をお開きいただきたいと思います。</p> <p>本編2ページの「基本構想」で、将来像の下に「まちづくりの大綱」として6つがございます。先程の「部門別施策体系(案)」は、この骨格をお示しさせていただきましたものです。この「まちづくりの大綱」をテーマの形でどのように表現するかは、次回に向けて現在検討している最中です。</p> <p>今日は、7つの骨格についてご審議いただき、テーマは表現を検討したいと思っておりますのでよろしくお願ひします。</p>   |
| 会長           | <p>只今、100人委員会の実績報告に基づいて、7つの部門を柱とする基本構想の骨子案をご説明いただきました。おそらく市民の皆様の関心があるところ、期待が大きいところで、中々目が向きにくいところがあるかと思いますが、そういったところにも重要な施策があるということで、100人委員会の報告とは少し異なった形での再考案が提示されています。</p> <p>本日は、この基本構想の骨子案に関することを中心にご意見を頂きたいと思っておりますので、委員の皆様からご質問やご意見があればお願いいたします。</p>  |
| 佐々木 大輔<br>委員 | <p>3点質問があります。</p> <p>1点目に、「部門別施策体系」の章とか項の並び順は、重要なものから先頭に記述されていくのかなという印象を受けるのですが、浜田市での生活面では、全国的に比べても頑張っているという印象を受けていまして、逆に産業や教育というところは、非常に弱いという印象を持っています。ですので、その辺から章を並べていくというものと思っていたのですが、並び順の意図が分かりま</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>せんで教えてください。</p> <p>2点目に、「定住」という言葉が目次からなくなったということが信じられません。私自身が長いこと東京にいたので、定住の部分で非常に困った部分が多いです。学校を出て戻って来ない子どもや、中々ここに定着しないとといったことも、どこの大綱で責任を持って骨子を明確にするのかということがぼやけてしまうのは、まずいのではないかという印象をすごく思います。</p> <p>3点目に、「建設」という言葉が今はもう合わないのではないかと考えています。カタカナを使うのであれば「インフラ」であるとか、「建設」以外の言葉で何か適当な言葉を選んでいただけると嬉しいなと思います。</p>   |
| 企画係長         | <p>まず、部門別施策体系の順番についてですが、資料2では、現在の計画の体系順をベースに出しています。とりあえずは、この順番で今からの作業を進めさせて頂きたいと考えていますが、おっしゃるように優先順位の考え方は必要と思っておりますので、今後、最終調整したいと思っております。</p> <p>2点目に「定住部門」がなくなったことについてですが、表現としてはなくなりましたが、各部門で定住施策を進めることには変わりありません。ただ、定住施策、あるいは人口減少対策の施策、そういった施策が出てくるように、その部門の施策大綱で取り組む事業を示していきたいと思っておりますので、「定住部門」はなくす案ですが、各部門で対応したいと考えています。</p> <p>3点目に、「建設」部門の別の表現としてご提案があれば、ぜひ提案をお願いしたいと思います。</p>   |
| 佐々木 大輔<br>委員 | <p>ありがとうございます。「定住」という言葉がなくなると、外から見るとやはり力を入れていないと見られてしまうので、そこだけ慎重にさせていただけたらと思います。</p>   |
| 企画係長         | <p>おっしゃる意図は十分承知しているつもりです。前回、全体計画の構成を示していますが、この「主要プロジェクト」では、「人口減少対策」イコール定住施策といった形で、全体の構成の最初の方で記述したいと思っております。</p>  |
| 会長           | <p>「定住」は重要な課題であるということは、おそらく間違いないことですので、そこのところはしっかり分かるような形にしていきたいと思っております。その他にございますか。</p>   |
| 栗栖委員         | <p>定住対策の件でお話がありましたが、「定住」については、非常に興味を持っているところでございます。これからの自治区において、大綱、振興計画の骨子を検討して繋げていくということですが、弥栄としては20数年間、「定住」というのは一つの大きな政策として今日までできております。</p> <p>浜田の大きなところでは「定住」というのはあまりそぐわないかもしれませんが、我々のような小さなところでは「定住」というのは非常に関心度が高いことではございまして、これから先、検討する中でも定住対策というのは当然繋いでいかなければならない弥栄自治区であるかと思っています。</p> <p>そういったしますと、今の話にありますように、部門の中で取り上げているから大丈夫というのは分かりますが、我々は具体的に「定住」をどうするのかという時には、一つの大綱としてあった方が拠りどころというか、一つのスタンスになるのではないかと思います。ここで「定住」と使わなくても、各自治区、弥栄としまして「定住」という政策を打ち出した時に認めてもらえるものかどうか、お聞きしたいと思います。</p> |
| 地域政策部長       | <p>今、各自治区で特色を持った地域づくりやまちづくり、定住対策をやっているところでございます。これまで説明しておりますように、このたびは自治区ごと</p>   |

|                        |  |
|------------------------|--|
|                        | <p>の計画も作って頂きますので、当然そこで出てきたものは全体の一部ということで、それは重要で浜田市として取り組むことになると思います。</p> <p>先程から「定住」が重要だというお話を出していただいておりますので、項目としては掲げておりませんが、皆さんにとって「定住」ということが十分インパクトがあって、今、一生懸命にU・I ターン施策をやっておりますので、そういうことが皆さんにしっかりご理解いただける、PRできるような表現の仕方を考えていきたいと思います。自治区でやられることは当然、それを尊重できるような流れにしていきたいと思います。</p>   |
| 玉置委員                   | <p>ご説明いただき、私の印象は、現計画から100人委員会の結果を基にして組み替える作業は大変だったと思いますが、全体的には上手く分けていただいたと思います。一番は「安全」という概念が、今までは道路があって建物があれば安全だという短絡的なイメージで記載してありましたが、きちんと「防災・防犯、消防」として、更にこうしてまとめられたことは非常に良かったと思います。</p> <p>ただ、「建設」という言葉に違和感があると言った佐々木さんの意見に同感です。「建設」という言葉は、今はそぐわない気がします。内容からは、生活基盤をしっかりと整えるというイメージだと思いますので、やはり「建設」という言葉は検討したいところだと思います。</p> <p>それから、優先事項を決めて、検討した方が良いという佐々木さんのご意見に賛成です。</p> <p>3番目に、「環境」の2番目に「人づくり」とありますが、「環境」の中に「人づくり」が突然出てくるというのは、人材が足りないということですか。ここだけ「人づくり」が大事かどうか、人材はどの部門でも必要ですよ。この項だけ特に「人づくり」を取り上げてあるので、真意が分からないのですが。</p> |
| 企画係長                   | <p>「環境」の「人づくり」の表現についてですが、おっしゃるとおりだと思っております。ここでは100人委員会で「人づくり」の意見が多かったということが実際にありましたので、とりあえず区分として残させていただきました。</p> <p>ただし、今から部門別計画の中身を作りますので、区分のタイトル、小テーマのタイトルも変わってくるものと思っております。ここについては100人委員会での実績を尊重した形で取り上げさせていただきましたので、今後検討させていただくということで進めたいと思います。</p>  |
| 玉置委員                   | <p>ざっと見て、「2人づくり等」は「1景観」に入れられるのではないかとと思うのですが、要するに市民による景観を守る、それから推進する活動を活発にしていくところだと思います。よろしくご検討をお願いします。</p>   |
| 会長                     | <p>施策大綱案の表現をご覧いただくと、案として非常に簡潔なものとなっています。これから、その表現を上げていく作業になるのだろうと思います。</p> <p>それでは、他にもご意見があるかと思いますが、後ほどの意見交換のところでも頂きたいと思いますので、議事を進めさせていただきます。</p>  |
| <b>(3) 進捗状況報告書について</b> |  |
| 会長                     | <p>続きまして、(3) 浜田市総合振興計画「後期基本計画」の進捗状況報告書について、事務局から説明をお願いします。</p>   |
| 地域政策部次長                | <p>現在の後期基本計画の進捗状況について、ご説明しますので、資料3をご覧ください。</p> <p>それから、今の計画書では、「代表的な目標」を定めて、そこに現状値と目標値を示して、それがどの程度進捗できたかということを検証できるようにして</p>   |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <p>おります。項目の数は全部で 69 項目あります。</p> <p>資料 3 は、その 69 項目について、平成 26 年度末時点での進捗状況をまとめています。この報告書の見方を説明しますので、3 ページをご覧ください。<br/>(報告書について説明)</p> <p>数字で示すということで、以上のような評価になったのですが、後退したということを明示してまとめておりますので、これについてご意見をいただけたらと思います。</p>  |
| 会長          | <p>只今、現在の計画の平成 26 年度末実績で進捗状況を報告いただきました。</p> <p>委員の皆様から、ご質問又はご意見があればお願いします。</p>   |
| 玉置委員        | <p>この指標の項目につきまして、私は大変疑問を持っております。既に挙げている項目なので、それに従って評価するのは致し方ないと思いますが、ここに挙げている指標の多くは、施設数とか開催回数とか、そういう絶対数を挙げていますが、本当にここに挙げたような項目が指標として計れるのか、大変疑問を持っております。</p> <p>例えば、「教育・文化部門」で申し上げますと、「2 生きる力を育む学校教育の充実」で耐震化率を計れるのでしょうか。生きる力というより生き延びる力ですよね。地震が起きた時にどれだけ学校が頑丈に作られているか。こういう指標で生きる力を育む学校教育は計れないですよ、当然。</p> <p>ここに挙げてあります指標は、いずれも市職員が机に座ったまま統計情報を集めて比較すれば出すことのできる数字がほとんどです。問題はこういった活動・サービスを行って市民がどのように変わったか、どのように考えが変わり、どのような活動に新たに参加するようになったか、そこを計らないと本当に計ったことにはならないですよ。じゃあ、どうするかということは非常に難しいことです。ですから、本当に必要な指標を厳選して、やはり現場に出て調べないと、こういう単純な数字では計れないものが多くあると思います。</p> <p>評価することは非常に大変ですが、小学生がこういう作文を書いたとか、こういうスポーツの事業に参加したとか、「J F A 夢の教室開催回数」とありますが、プロのスポーツ選手を招いて授業をしてもらった、教えてもらった、こういう機会に参加した子どもたちはどんなふうに刺激を受けたか、そういうことが私たちは知りたいのであって、回数ではないと思います。</p> <p>ですから、今後、新しい施策に従って評価の指標を作る時はもっと考えなければいけないと思います。</p> <p>後でまた指標のことについて、話す機会があるのでしょうか。医療の保険料のことが出ていて見ましたが、色々な意見がございます。平均寿命の目標値などを挙げてありますが、今はそんな目標値を立てる時代ではないと思います。健康寿命がどれだけ伸ばせるか、そういう質の問題なのですよね。</p> <p>ですので、今挙げてある指標から非常に再考が必要だと思います。</p> |
| 地域政策部<br>次長 | <p>ご指摘はごもっともだと私も感じました。</p> <p>毎回話していると思うのですが、色々調べますと、このような数値目標を挙げてその達成率を数字で示そうという取り組みは、前回はごく一部でしかなかったようで、現計画で本格的に 69 個の項目を挙げて達成率を数字で示すようにしたようでございます。</p> <p>ですから、私もこれを見る中で、こんなもの絶対に出来ないではないかというものも挙がっていますし、何もしなくてもよほどのことがない限り 100% を達成してしまうような目標もありますので、今回の計画策定に合わせて数値目</p>  |

|                            |  |
|----------------------------|--|
|                            | <p>標を掲げるにあたっては、より実態に近い形で進捗状況を示せるよう庁内で徹底していきたいと思っております。</p> <p>最後に仰った「量ではなく質」ということももっともですが、数字での進捗状況の整理も必要かと思えます。</p>  |
| 会長                         | <p>中々数値で計れないところもあるという難しさもありますので、委員の皆様のお意見をお聞かせいただきたいと思いますが、他にいかがでしょうか。</p>   |
| 木村委員                       | <p>只今指摘されました点に、私も同感です。学校の耐震化というのであれば、安全というところに位置づけを持ってきて仕事の指標を見る中に位置付けたいのかなと思いました。</p> <p>それと、6ページの「6上・下水道」で、①簡易水道の関係ですが、目標値が32か所で平成26年度現状値が47か所になっていて68%、C評価になっていますが、ここでは他と違った計算や考え方があってこのようになっているのか、この点だけ伺いたいと思います。</p>  |
| 地域政策部次長                    | <p>私も今回この資料を作られたのを見て、腑に落ちないことがあったのですが、よく調べて分かりました。大体の項目は、増やす目標になっており、現状値を目標値で割って達成率を出しています。ところが、今の項目のように現状値を減らす目標を掲げているものがあり、それについては、分母と分子を逆にして目標を達成できたかという形で示しております。この場合は47を32で割るのでなく、逆に32を47で割り68%として、達成率を示しています。</p>  |
| 木村委員                       | <p>この項だけでしょうか。他にもありますか。</p>  |
| 地域政策部次長                    | <p>減る項目は他にも結構あったと思いますので、またご覧ください。</p>  |
| 会長                         | <p>他にもご意見があるかと思いますが、後ほどの意見交換のところでも頂きたいと思しますので、議事を進めさせていただきます。</p>  |
| <p><b>(4) 人口推計について</b></p> |  |
| 会長                         | <p>続きまして、(4)人口推計について、事務局から説明をお願いします。</p>   |
| 地域プロジェクト推進室長               | <p>人口目標ですとか、色んな数値を考えていく上で、現在の人口の現状をしっかり分析して、その中から課題を見出して事業に結びつけるというプロセスが必要と思っております。</p> <p>今回は、浜田市の現状をお示ししたいということで資料を用意しております。</p> <p>まず、「1 浜田市の人口動向」ですが、1955年に91,495人とピークを迎え、赤いグラフを見ていただくと、国勢調査では2010年に61,713人、現在4年経って約57,000人になっていて、減少傾向にあるということです。それから、下のグラフは年齢階層ごとの状況ということで、ブルーのラインの65歳以上の人口が増えているということがございます。</p> <p>「2 浜田市の高齢化率の推移」ですが、浜田市全体を赤いグラフで示し、それに対して自治区ごとの色分けをして示しております。浜田市全体の数値よりも高齢化が低く進んでいるのは、浜田自治区のみということで、あとは高い数値ということです。旭については2010年度に下がっていますが、これは矯正施設開所の関係が非常に大きいということがあります。ただ旭全体が好転しているのかと言いますと、例えば今市地区だけに限定しての状況ですので、その中の状況を詳しく見ていきますと、色んな課題があるかと思えます。</p> <p>2ページは、自治区ごとの人口の動向をお示したものです。グラフで大体の傾向を示していますが、浜田自治区の人口が減っていますが、角度はなだらかな状況に比べて、他自治区の減り方を見ていただきたいと思えます。</p> |



3 ページは、浜田市の人口構成が長いスパンで見た時にどのように変わってきているかということで、大体 25 年から 30 年ごとの推移を見ています。一番上が 1955 年のもので、ピラミッド型、三角形型ということで、若い世代の層が多いという非常に安定した形ですが、30 年後の 1985 年には、やや若い層が減っている状況です。2010 年には更に減り、三角形型からきのこ型に変わって、構造が変化していることが分かります。

特に色の濃い部分は、20 歳から 39 歳までで、子どもを産み育てる若い世代になりますが、ここが減ってきているということが非常に大きな課題です。今後、これが拡張していくかと言いますと、一番下のグラフの 0 歳から 19 歳までの範囲が上のグラフより更に少なく、今後もこの傾向が続くということです。

4 ページですが、先ほどは国勢調査の 4 年前の情報でしたので、ここでは、より新しい情報として住民基本台帳の数で同じように分析しています。2010 年と 2015 年の直近の数値を比べています。グラフの下に考察を示し、一つは上のグラフの 65 歳以上の層の人口が 31.1%、それが 5 年後には 34.4%と少し高くなって高齢化が進んでいるという点。2 点目は、色の濃い部分、子どもを産み育てる若い世代が 2010 年は 11,400 人程度で、現在が 10,000 人弱と、1,200 人ほど減っていること。もう 1 点は、赤い矢印のように、5 年前に 15 歳から 19 歳の階層にいた子どもたちは、順調にいけば 5 年後はその上の 20 歳から 24 歳の階層となるはずですが、男性は 1,370 人から 1,172 人と 14%強の減少、女性も同様に 18%減少ということで、高校卒業後に進学・就職で出て戻って来ないというところが大きな課題として分かります。

5 ページは、「浜田市の自然動態の動向」ということで、生まれてくる子どもの数と亡くなる方の数の状況を示しております。この中で注目して頂きたいのは、青いグラフが生まれてくる子供の数、赤いグラフがお亡くなりになる人の数で、この差をグリーンの棒グラフで示しております。元々は自然増という状況が続いていたものが、1990 年くらいからマイナスに転じ始めて、その差が段々大きくなってきているということで、2014 年には、マイナス 475 となっています。

この中の数値で注目して頂きたいのが、2014 年に浜田市で生まれている子どもさんの数が 430 人で、この数値を覚えておいていただき、これが出生率でどうなるかということですが、国が物差しとして用いる合計特殊出生率は 5 年くらいの平均を取るもので、浜田で 430 人生まれているということは下のグラフのように 1.65 という数値になります。2013 年を見ていただくと、島根県と大体同様の数値で、国が 1.43 ですから、島根県や浜田市は 0.2 高いという状況です。国の人口ビジョンでは、この 1.43 を将来的に 2.07 まで高めようという計画ですので、それと同じような目標値で考えると、浜田の場合も 0.2 高いということは 2.27、2.3 弱を目指す数値になってくるということです。

6 ページは、社会動態の転入と転出の差を比べたものです。緑色の棒グラフが 1990 年くらいまでは出ていく数が多かったのが、持ち直しましてプラスになり、若干±0 くらいに転じてきたものが、最近になって転出の方が多くなっている状況です。

最後の 7 ページでは、人口シミュレーションとして、目標となる数値を決めるのに合計特殊出生率がよく挙げられますが、それでは具体的な数値がつかみにくいということで、具体的に生まれてくる子を何人にすればいいのかを試算しています。

|                      |   |
|----------------------|---|
|                      | <p>先ほど、現在は 430 人程度ということをお知らせしました。これが 5 年後くらいから毎年 500 人ずつ生まれ、仮に社会増減が無いと仮定すると 2060 年に 44,249 人となり、それでも人口がここまで下がります。</p> <p>次に、生まれてくる子供を 450 人と仮定すると、2060 年に 42,111 人となり、400 人の出生と仮定すると 40,000 人を割るという状況です。</p> <p>ちなみに一番下にありますのは、このまま何もしない場合の推計で、出生率でいうと 1.5、社会減は今よりもう少し改善するという仮定していますが、それにしても 30,000 人を切るということになります。</p> <p>人口目標をいくりにするかということをお今日決める訳ではありませんが、今後、500 人生まれることを実現しようとする、という事業を積み重ねていくといけそうとか、やはり無理ではないかという議論を重ねて、目標とする数値を設けることになると思います。あわせて、社会増減 0 というのはかなり厳しい数字ですので、それほどの辺りに目標を定めていくか、これから事業などを考えながら推計していくということになります。</p> <p>なお、人口目標については、県の目標なども参考にしますが、まだ県は示されておりません。7 月に意見交換会などがあって、多少見えてくると思いますので、目標値についてはお時間をいただいて事業を考えながら先々決定していくという流れになると思います。</p>   |
| <p>会長</p>            | <p>人口推計について説明いただきましたが、委員の皆様から、ご質問又はご意見があればお願いします。</p>   |
| <p>佐々木 玲慈<br/>委員</p> | <p>総合振興計画の人口動向ですが、誰が誰のために計画を作って誰が実行するか、という実行をするかということで、人口の動向を見ながら、ターゲットが見えている状況の中でやっていかないと無意味なもの、空論になってしまうと思いますので、この人口シミュレーションは非常に参考になると思います。</p> <p>こういったものを市民に分かりやすく具体的にするためには、一番柱になるのではないかと思います。これを市報に毎月、現在の人口が出ていますが、また減ったというだけでなく、これをどうやって増やしていくかということと、500 人、400 人というシミュレーションをする中で、500 人、600 人、1,000 人にするためにどうしたらいいか、それを実現するために我々が総合振興計画を上手く作らないと意味がないと思いますので、これが一番中心になると思っております。</p> <p>これを中心に、浜田で産む人をたくさん連れてくるということなのか、若い人をどんどん連れてきて産み育てる環境を作る施策を作っていくのか、「定住」という話がずっと出ていますが、高齢者、団塊の世代といった人たちを U ターン、I ターンで連れてきて人口を増やしていくのか、そうではなくて、これからもっと子どもを産み育てる人たちをターゲットにした施策を計画するための総合振興計画でなければならないと思います。</p> <p>その辺りの、何を柱にして何を目標にするかというところの柱になってくるかというところの資料だと受け止めさせていただきました。これを総合振興計画の策定において、どう組み立てていくのかが大事だと思います。</p> |
| <p>地域プロジェクト推進室長</p>  | <p>確かに人口が減っているということだけでなく、どのような将来の状況になるかということをおきちんと伝えることは確かに大事なことでと思いますので、その周知の方向などもあわせて考えていかなければいけないと思っています。</p> <p>こうやって見ていくと、一番問題と考えているのは、人口を減らないように維持すること、生まれてくる子どもを増やす施策です。もう一つは、死亡者の</p>   |



|              |   |
|--------------|---|
|              | <p>数を減らしていく、3 つ目は転出していく人を減らしていく、最後に入ってくる人をいかに増やしていくか、この4つしか道としてありません。</p> <p>その4つのうち、どこに力を入れていくかをこの資料を見ながらしっかり考えていく必要があると思っております、例えば死亡者をどれだけ減らしていくかということ、子どもを増やしていけばそれが将来に繋がってくるということですので、どこに力を入れていくのかということが少し見えてくるのではないかと思います。</p> <p>それから転入を増やすということになると、U・Iターンに力を入れるということもありますし、転出者を減らすとなると、この地域の働く基盤をしっかりと用意をすることや、場合によっては教育的な要素も含まれてくると思うので、そういう中から色んな事業ができたらいいと思っております。</p> <p>具体的な事業を考える上で、分析した結果を承知していただけるか、その中からまた色んなアイデアが出てくるのではないかと思います。</p>   |
| 佐々木 玲慈<br>委員 | <p>前回の審議会で、1920年の島根県の人口が71万人で、2010年も71万人と言いますが、その中身が今示されたように大事だということをお願いしたと思うのですが、我々も高齢者を対象としたまちづくりで介護だとか福祉だとかに重点を置いたまちづくりをするのか、色んな方にお来しいたきてやっていくのか、それとも若い世代を増やしての人口の維持なのか、もう少し先の策定を重点に取り組めば自ずと目標と計画、仕事の内容が出てくるのではないかと、若い人が夢を持てるような、また市職員さんがワクワクして仕事ができるような、そういう計画にしていけたらいいなど。そのための参考になる非常に大事な人口の構成の資料だと思います。また詳しく教えていただけたらと思います。</p>   |
| 会長           | <p>ありがとうございます。</p> <p>他の観点で委員の皆様からございますか。</p>   |
| 槇岡委員         | <p>どんな角度から見ても難しい問題だと思います。現状で、人口を増やすというのはとても至難の技で、できれば労働人口を増やしていく、職場を増やしていけば一番いいとは思いますが、今はどこの企業も増やすどころか減らしていく逆行の状態の人減らしをしていく、経営上の問題もあります。</p> <p>若い人たちを連れて来て、子どもをたくさん産んでもらうというのは、確かに理想ですが、現実問題として自分たちの孫も成長していくに従って、外へ出ていくというのが現状だと思います。</p> <p>これを何とか少しでも地元に残るように考えた時に、市内に物を作る場所、生産していく拠点を少しずつでも皆さんが創意工夫し、野菜でも何でもただ売るというのではなく、付加価値を付けてやるということになりますと、人もいるし、それなりの売価、価値観がだんだん上がってきますので、こういった問題は避けて通れないのではないかと思います。</p> <p>棚からぼた餅式に、誰かがどこかから来て工場を建てるというのが出来ていれば、これまでに何か所もできているはずなんです。行政の皆さんもそういった努力は十分していただいていると思っておりますが、世の中の現状はこうですから、中々人が変わってもできないということになりますと、自分たちで何かを立ち上げて地域を活性化させながら労働力も一緒に増やしていく、そして生きがいを感じるということになりますと、年配の方もじっとしていたものが、今日はいそこへ行き、明日はいそこにいて働くという、生きがいを感じるということは、これは長生きにもつながると思っております。</p> <p>ある書物では、人間が一番長生きができる原点というのは、まず毎日手洗い</p> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>をこまめにする事だそうです。これは清潔に保つということだと思います。ただ美味しいものを食べていけば元気になるということではありません。働くというのが人間ですから、体が不自由なら仕方ありませんが、皆さん働いていくという楽しみを、そういった場所をこれから誰が考えるというよりも地域の皆さん方が自分たちの事としてしっかり考えていくチームを作って、そういうものを推し進めていくということが、自分たちの努力なしで何かがよくなるという思いは捨てていただいて、やっていく必要があるのではないかと思います。</p>  |
| 会長   | <p>単純に人口の問題だけでなく、色んなことが関わり合っていると思いますが、それを皆さんご認識いただけたらと思います。</p> <p>ここで、休憩をとりたいと思います。</p> <p>再開を午後 3 時 25 分とさせていただきます。</p>   |
| <p><b>(5) 協議項目について</b> <span style="float: right;"><b>(午後 3 時 25 分再開)</b></span></p> |   |
| 会長   | <p>それでは、再開します。</p> <p>(5) 協議項目について、前回に引き続き意見交換を行います。</p> <p>前回は、計画の名称をはじめとした 7 つの協議項目について、数人の方にご発言いただき、今回までに意見書として提出いただくこととしました。</p> <p>本日は、各委員からの意見書をまとめた資料が配付されていますので、この中で、議題(2)の「基本構想の骨子案」に関係する項目を中心に意見交換したいと思います。</p> <p>この意見交換は、4 時 30 分を目途に行い、その後、「基本構想の骨子案」についてのご意見をまとめたいと思いますので、ご協力をお願いします。</p> <p>それでは、まず、意見書の概要について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>あわせて、玉置委員から資料提供のお願いがあったということなので、「資料 5-2」についても説明をお願いします。</p>  |
| 企画係長   | <p>それでは、資料 5-1、資料 5-1 別紙、資料 5-2 の 3 点についてご説明させていただきます。まず資料 5-1 をご覧ください。</p> <p>委員の皆さんから意見書を書面でご提出いただき、それをまとめました。皆さんのご意見から気付いたことを触れさせていただきます。その後、会長の進行で意見交換を行っていただきたいと思っております。</p> <p>まず 1 ページの「総合振興計画の名称について」ですが、前回執行部の方でまたご提案すると申しましたが、ここに 3 点出していただいたことも踏まえて、もう少し検討したいと思っております。</p> <p>次に「2 将来像、キャッチフレーズ」についてです。「選ばれる浜田市」という意見や、現在のキャッチフレーズをベースにしたところで、20 点くらいご提案いただきました。また、市民から公募するののも一つというご意見もいただいております。こういった意見も踏まえて検討したいと思っております。7 月 17 日(金)には市議会との意見交換会も予定しておりますので、そこでご提案があれば、それも踏まえて審議会委員の皆さんともご相談しながら検討したいと思っております。</p> <p>続いて 2 ページの「総合振興計画の構成について」です。総体的なご意見としては、シンプルにさせていただきたい、分かりやすい構成にしてほしい、今回の「主要プロジェクト」という形は妙案ではないか、というご意見もいただいております。各部門の名称についてもご提案をいただいております。</p> <p>続いて 4 ページの「4 総合振興計画の進捗管理方法について」です。委員ごとに意見を載せております。総体的には、外部評価をした方がいい、PDCA</p> |

|                     |  |
|---------------------|--|
|                     | <p>サイクルによって管理をしていくことが大事ということでした。評価、管理の機関は色々ご意見があったところですが、そういったご意見を踏まえて検討したいと思います。</p> <p>続いて5ページの「5 目標・指標値について」です。この中では、人口の目標というのが大きい指標で、目標として掲げることが重要というご意見でした。その中で先ほども出ていますがPDCAで目標を見直して実行に移していくという仕組みに繋げていくべきというご意見でした。6ページでは、具体的に6万人台に回復させるような取り組みをしてはどうか、というようなご提案もいただいております。</p> <p>続いて7ページの「6 施策・事業について」です。こちらでは、各委員の色々なアイデアが盛り込まれておりますので、後程、提案された委員ごとにご主張いただきたいと思っておりますので、割愛させていただきます。</p> <p>最後に14ページの「7 その他（計画のデザイン、活用方法）」です。計画書のデザインについては、写真を掲載した方がいいという一方で、写真はいらぬという意見もいただいております。総体的には、分かりやすいデザイン、見やすいものというご意見が多くありました。②計画書の活用方法ですが、総合振興計画を地域の会合等で見ていただけるような計画にすべきということで、活用方法についてもう少し検討する必要があると思っております。</p> <p>以上、私の感じたところでポイントを述べさせていただきました。</p> <p>次に、資料5-1の別紙でカラー刷りのものですが、これは佐々木玲慈委員がイメージ図まで作っていただいたのでそのまま載せさせていただきました。後程、簡単に説明していただきたいと思っております。</p> <p>続きまして、玉置委員からご要望があり、準備させていただきましたので、資料5-2について説明させていただきます。</p> |
| <p>市民生活部<br/>次長</p> | <p>資料5-2をご覧ください。平成26年度の国民健康保険料の状況でございます。</p> <p>まず、1番は保険料（税）の賦課状況を載せております。国保料につきましては、表の上にあるように、医療費分、後期高齢者の支援分、介護保険への負担分の3区分で賦課されており、区分ごとに所得に対する料率に対するその世帯の被保険者の人数、世帯ごとの均等割プラス賦課限度額ということで賦課されております。</p> <p>浜田市の現状としては、平成26年度に大幅な改定をさせていただいたところですので。これでは他市との比較が分かりませんので、2番に世帯当たりのそれぞれの率に基づいて右にモデル世帯とありますが、4人の世帯がそれぞれの市で賦課された場合にどのくらいになるかを、私どもで試算した数字が掲げてあります。これで見ますと、浜田市は県内8市で3番目の保険料の高さということが伺えます。</p> <p>それから、裏面に医療、費用額の資料を載せています。この資料は、島根県国民健康保険協会の方で作成された資料ですが、昨年3月から今年2月までの診療分についての集計で作られております。</p> <p>まず、上の表ですが、1人当たりの費用額です。これは診療代と薬代と全部を含めた額です。市町村ごとの費用額の総額を被保険者で割り出して費用額を出されております。凡例にありますように、赤色が高く青色が低いという見方になりますが、石見地方に赤色が集中しているのが見て分かります。浜田市は、県内では3番目に高い額で468,000円ということになっております。</p> <p>それから下の表は、1件当たりの費用額と受診率の相関ということで、費用</p>   |

|              |   |
|--------------|---|
|              | <p>が計算してあります。これについては、薬代は含まれておりません。</p> <p>表の見方は、横軸にレセプトの1件当たりの費用額ということで、縦軸は受診率ということで病院にかかる人の率を表しております。表の真ん中に太字で十字がありますが、これは島根県全体の数値で、浜田市は高いところにあります。1件当たりの費用額につきましては、県と同じくらいの額、縦軸の方がかなり高く、一番高いところにあります。それだけたくさん病院にかかっているという見方ができます。それから受診率の格差が1人当たりの費用額の高額につながっているのではないかと思います。</p>  |
| 会長           | <p>意見書の概要と、保険料や医療費の県内比較について説明いただきました。それでは、項目ごとに意見交換したいと思います。</p> <p>まずは総合振興計画の名称について、シンプルなものがいい、というものもあるようですが、その場で追加、こういう案もあるというようなもの、ご意見があれば仰っていただけたらと思います。まだ議会との意見交換等もあり、この場で決定という訳には中々いかないようですが。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>次に、キャッチフレーズについて、従来のものを継承する形のものか、あるいは「住みたくなる」「住み続けたい」というような提案もあります。中々決定という訳にはいかないと思いましたが、こういった方向性ではどうだろうかというご意見を出していただければと思いますがいかがですか。</p> |
| 佐々木 大輔<br>委員 | <p>私は「観光」とか「定住」とかに関わっているので、個人的な意見ですが、キャッチフレーズは市民に向けたものか、浜田市外の人が見るものかというメッセージにするかということが違ってくと思います。</p> <p>私がよく県外とかでお話をさせていただく時に、「浜田って何があるの」という時に、「こうだよ」と一言でいえるようなキャッチフレーズだと話しやすいなと思ったりするので、このキャッチフレーズを誰に届けたいかということをお考えながら決めていただけると嬉しいです。</p>  |
| 会長           | <p>非常に重要なお指摘と思いました。おそらく、私の感覚ですが、外に向けて発信するという効果の方が大きいのかなと思っています。</p> <p>その他ご意見ございますか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>これから絞り込んでいくと思いますが、ご検討いただけたらと思います。</p> <p>次に、③計画の構成について、先ほど議論いただいた基本構想の骨子に関わってくるところですが、改めて7つの柱がございますが、重要度の順に配列する、あるいは表現はこれから決められていくのかもしれませんが、表現の仕方で意見があるようでしたら、ぜひ案を出していただけたらと思います。</p>  |
| 地域政策部長       | <p>ご意見がないようですので、ご意見をいただいた中で、先ほど体系のところでは並び順のことがありました。これは、検討ということで協議してまいります。7月17日の議員さんとの意見交換も踏まえて検討してまいります。</p> <p>それからもう一つ、「建設」という言葉と、「環境」の中の「人づくり」についても検討します。この部分は、それ以外にもこうしたらいいのではないかと、といったことを引き続きご意見をいただけたらと思います。</p>   |
| 会長           | <p>後ほどお気づきの点がありましたら、ご発言いただくこととしまして、「4進捗管理方法」について、改めてご発言いただけますでしょうか。</p>   |
| 佐々木 大輔<br>委員 | <p>説明にもあったと思うのですが、私も第三者というか、浜田市以外の方のチェックの機能というものもあった方がいいのかなと思います。</p>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>例えば、今だと進捗状況をタイムリーにWEBで発信するということができますので、そういった頻度を上げたチェックというか、情報公開というのもいいのかなと思いました。</p>  |
| 会長   | <p>関連したもの、その他でもいいですが皆さんいかがですか。</p> <p>進捗管理については分かりませんが、このたび100人委員会を開催されたということで、そういった市民の意見を汲み取っていくことが非常にクローズアップされているように感じておりますので、市民の意見を吸い上げていくような仕組みを取るといっても結構かなと私は考えます。</p> <p>それでは、またお気づきの点があれば仰っていただくとして、5番目の目標・指標値についてはいかがでしょうか。</p>  |
| 玉置委員 | <p>先ほど目標値について発言しましたが、それではどうということが指標になるかについてですが、これは大変深い議論が必要だと思いますが、私は「健康福祉」部門に大変興味があり、現在の計画の最初に出ていますので見てみると、診療所の数とかを挙げておりますが、そうではなくて誰もが安心して受けられる医療体制の整備に関しては、例えば市民が皆信頼できる主治医を持ってもらえるかとか、医療費の負担の程度のこととか、市民がどう感じているかとか、医者に行くのが高過ぎるのでは安心した医療体制ではないので、これに関して私は資料5-2をお願いしたところですが、2年前くらいの資料ですと、浜田市の医療費は江津市に次いで2番目に高く、それに比べて国保料が一番低いということで、だから上げてくださいというお願いになっていたのですが、先程の資料を拝見しますと、状況が大変に変わっています。</p> <p>医療費も高いが、保険料も高いということで、最近、国から医療費の抑制ということが非常に強く打ち出されておまして、標準の国の方程式にはめ込んで、それ以上の医療費を使っているところには罰則がつく。もちろん医療費を抑えることだけが大事なことではないです。必要なところには出さなければいけないし、ただし無駄もあるかもしれないと。その辺りの精査をきちんとやっていくべきだと思います。</p> <p>先程のグラフにも石見部だけどうしてこんなに医療費が高い市町村が固まっているのかなと、何か原因があると思うのですが。</p> <p>診療と治療費の中にも、医療センターが備えている高価な機械の使用、これは予防も治療も含まれると思いますが、そういう機械の使用料と治療費とは違うと思います。ですから機械の使用料で医療費を押しあがっているのかどうか、この辺りも知りたいところですが、ここでそこまではできませんが。どうしてこういう数字になっているのか調べて、そこから私たち浜田市民の医療費は適正なのか、無駄なのかどうかというところを検討する必要があると思います。</p> <p>それから「平均寿命」とありますが、今はやはり「健康寿命」だと思います。浜田市の健康寿命は何年でしょうか。出ておりますでしょうか。それを知りたいし、これを伸ばすという努力を私たちはすべきだと思います。</p> <p>それから脳疾患や癌など、心疾患の死亡率が上がっていますが、これに対しても予防や発見、治療、リハビリ、色んな段階に応じてどういう努力が必要かという現状を見ないと、ただ死亡率を追うだけでは出てこないと思います。</p> <p>それから、浜田は自殺率が高かったように覚えているのですが、これも原因を突き止めてどうしていったらいいか、そういったところを指標にしていきたいと思います。</p> <p>いずれにしても、行政から見た施設数とか、受入数云々という目線ではなく</p> |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>て、そこにサービスを受ける側の現状を計るやり方を見つけていただきたい。たくさん調べる必要はないと思います。重要な項目を見つけて文章でも、もちろん数字も入れながら評価できるような、そういった手間暇かけた評価をすべきだと思います。</p> <p>「障がい者の認知症サポーター数」とありますが、これは講習を受けた方の数ですか。私も講習を受けましたが、その後は何もしておりません。サポーター数とはどういう意味か分かりません。それから「就労支援事業所等に通所する障がい者の平均工賃月額」、もちろん工賃は大事ですが、これが指標になるのでしょうか。やさしい環境づくりを本当に示しているのか。</p> <p>こういう点が、現在の指標を見て私が思った感想です。</p> <p>それから、「3 計画の構成」で言い忘れましたが、各部門の「1 健康でいきいきと暮らせるまち」とか、「2 豊かな心を育む教育と文化を身近に感じるまち」とか付いていますが、この見出しがパッと入ってくるものと、どういうことかなというものがあります。また、こういう見出しを付けられるつもりですか。例えば「豊かな心を育む教育」とはどういうものでしょうか。この定義が非常に難しいと思います。子どもたちに「豊かな心」を持ってもらうように教育すると言っても、私たち大人が果たして「豊かな心」を持っているかと言われたら考えますよね。「生きる力」とは何でしょうか。そういうことを考えますと、見出しもあまり美しい見出しは結構ですから、もっと具体的な内容が分かるものを付けていただきたいと思います。</p> <p>それから「教育・部門」では、不思議なことに「学力」が項目から落ちていきますよね。まったく項目に入っていないことに疑問を感じました。</p> <p>初めの①と②の部門だけですが、こういうことを考えました。</p> |
| 会長           | <p>現行の計画の指標が必ずしもあるという訳ではないと思いますので、そこはこれから作っていく計画については、適切に、難しい問題ではあるかと思いますが、知恵をお貸しいただけたらと思います。</p>  |
| 健康福祉部<br>次長  | <p>先ほど玉置委員から具体的にご質問いただきました。一つ一つこの場でお答えできませんが、市側から見た視点での目標設定を考えていきたいと思っています。</p>  |
| 佐々木 大輔<br>委員 | <p>目標・指標値について4点ほど述べます。</p> <p>まず、指標値や目標値の設定というのは、その数値を見て実態が把握できなければいけないと思っています。</p> <p>私は玉置さんの意見と少し違うのですが、まず質を計るデータは取るべきではないと思っています。なぜかという、市民活動のデータを集めるというところに結構手間暇かかります。そこに時間をかけると、市民の活動が活発になりにくいというふうになんか実態を見ていて思ったので、まずは数字として取れるものだけを集めていくのが大事ではないかと思っています。</p> <p>それから目標値は10年を見据えて設定していくと思いますが、目標値の値そのものでなく、項目の追加・削除というのは定期的に見直した方が実態に即しているのかなと思っています。</p> <p>最後に、私個人的には、浜田市は結構面白いことが色々できると考えています。結構将来を客観的に楽しみに考えています。色々な取り組みをすれば、社会増はプラスにできると考えていますので、少なくとも子供たちは今後そういった未来を描いてあげないと、浜田市にいい未来というイメージを持ってもらえない、離れていくと思っています。せっかく10年を見据えて作りますので、この中にそういった可能性という要素も入れていただきたいと思っています。</p>   |

|              |   |
|--------------|---|
| 会長           | 可能性を入れるというのは、目標・指標に入れるということでしょうか。   |
| 佐々木 大輔<br>委員 | 今は人口の社会増減が0という前提になっていますので、それをプラスにということです。   |
| 地域政策部長       | <p>只今、非常に心強いご意見、ご提案がありました。社会増も自然増も具体的な施策を積み上げて目標を出すかということで、ただ数字だけをポンと出して、その具体的な施策がないということでは意味がないと思っています。</p> <p>今、佐々木委員さんからそのヒントもあるのご意見をいただきましたので、ぜひ審議会やそれ以外の場でもアイデアがあるということ、またご提言いただいて、中々今社会増減がプラスにといった人口目標を出しているところはないですが、その辺の施策でプラスが出せるとすれば、非常にインパクトのある総合振興計画になると思いますので、またご意見をいただきたいと思っています。</p> |
| 馬場委員         | 先程から色々な項目について委員さんから意見も出ている中で、出ている意見についてはワーキンググループで検討されるのでしょうか。  |
| 地域プロジェクト推進室長 | <p>振興計画は市民の創意で作っていくものだと思いますので、この審議会から出た意見もございましょうし、あるいはこれから議会で色々な意見もございましょうし、それから行政にとしても聞くだけではなく、まちづくりの専門家として巻き込んでいくことも必要だと思いますので、そういったものをもとにワーキングで議論して施策案を作っていくことになると思います。</p> <p>従って、今回いただいた委員のご意見も参考にワーキングで議論させていただきたいと思っています。</p>   |
| 馬場委員         | <p>目標・指標値については、部門別に現状の目標値を設定するという事は大事なことと思いますが、そぐわないものもたくさん見受けられます。市民から見ても非常に疑問視される項目があります。そこはワーキンググループでも少したいていただいて、本当に必要なものを選別していただくのも必要な作業ではないかと思っています。</p> <p>そうすると玉置さんが仰ったように、実際に業務を一生懸命頑張っている人たちの思いが入ってくると思うのですが、その確認はまたワーキンググループのところへ上がってくるのでしょうか。</p>  |
| 地域プロジェクト推進室長 | 当然、どういった指標にするかという細かなところを詰めていくことがワーキングの役割でもありますので、今日審議会でもいただいたご意見も参考にお話をしたいと思っています。  |
| 馬場委員         | それも、またここでディスカッションできるということでしょうか。   |
| 地域プロジェクト推進室長 | タイミングについては、いつということがこの場で言えませんが、ワーキングでたいて、また提案させていただいて、皆さん方にお示しします。   |
| 馬場委員         | ありがとうございます。楽しみにしています。キャッチフレーズについては、若者たちがどういう浜田市だったらいいかという着眼点も入れていただければ、どこでどういった声を聞くか、たぶん子育て支援課だとか、そういう声をどこかで聴いているのではないかと思うのですが、そういうところも少しあげていただくといいかなと思います。たぶんここ2、3年の内に、どこかで拾っている場があると思います。   |
| 地域政策部長       | 具体的にどういう方法で若者の想いとか、キャッチフレーズとかを伺っているかは即答できませんが、これから調べてみたいということと、前もお話したと思いますが、中高生アンケートや県大生にヒアリング等もしていこうと思いますので、そういう中からも出していくことが必要だと思います。  |
| 馬場委員         | そういうところを非常に期待しています。   |



|              |   |
|--------------|---|
| 会長           | <p>次に⑥施策・事業について、色々と具体的なご提案までいただいていますので、中々すべてをという訳にはいきませんが、強調してということがありましたらお話いただきたいと思います。</p> <p>まずは、佐々木玲慈委員から別紙で資料をご提出いただいておりますので、ご説明いただけたらと思います。</p>   |
| 佐々木 玲慈<br>委員 | <p>6月9日の朝日新聞に「山陰リニアは有益である」と出ていました。山陰リニアについては、平成25年6月5日に東京で山陰縦貫の超高速鉄道整備推進市町村会議が開かれたようで、これが島根県や山口県、鳥取県、山陰新幹線の話が出ています。これを見ると、大阪・京都から下関、九州を結ぶ構想とあるのですが、浜田に停まるのかというところがあります。</p> <p>6月19日の山陰中央新報の1面に出てまして、JRの「瑞風」豪華寝台列車が停まるのが山陰の5駅なんですけど、浜田とかは停まらないんです。山陰新幹線に3兆とか、リニアの場合は14兆とかかけて、これをやるよりも広島・浜田間をつなぎ、浜田を広島のベッドタウンにしたらどうかと思います。そうすると人口も増えるし、先程の話にあった生産年齢人口についてもある程度増えれば叶うと思います。働く場所を広島とし、住む場所を浜田にすると。若い人に色々聞いたら、特に30代の若い人たちは期待感を持って、そういうことがあると非常にいいね、と。故郷や友達から離れずにいて、就職できるのは非常にありがたいので、できたらいいねと。</p> <p>鉄道については、資料にも書いてあるのですが、1960年、100年以上前から国会でも取り上げられて、閣議決定もされて予算も出たが、できなかった。先人がされようとしたことを現代の人たちが新たな運動としてするような方向へどうして動かないのかと思っています。議論していることについても解決する策が見えてくるのではないかと思います。</p> <p>この山陰新幹線には55もの市町村と5県で首長さんたちが実行委員会や規約も作って国家予算でやろうと機運が高まっているが、広島と浜田を結ぶような計画を策定・支援した方がより現実的ではないかと思ってこの資料を作りました。これは国家予算であれば、3年でできる事業であると思っています。広島・浜田が繋がれば、新幹線で関東とか関西からやってくるカーブ女子が広島まで来るので、鉄道ができれば浜田に来てくれて、住みついてくれて人口も増えるのではないかと。若年世代の交流を深めるためにも、こういったことが必要なのではないかと思い、色々と過去を調べ、将来的なことを調べたらこういうものが作れました。</p> <p>また皆さんにご覧いただいて、これを夢物語と思わずにいただければありがたいし、山陰新幹線を作ろうという活動とか、予算組をするのであれば、非現実的な発想ではない。京都大学の大学院の中川教授が、山陰新幹線ができれば18兆円の利益が出ると試算されているくらいなので、これも一つ研究してみても浜田の今後の生きる道としてどうかと思います。</p> <p>世界で知名度があるのが東京と広島で、広島には原爆ドームと宮島、石見には石見銀山があり、浜田と広島を結ぶと世界遺産が結ばれます。それから今、企業誘致に浜田市も努力していますが、むしろ自治体同士の情報交換と自治体への営業を重ねて役割分担しつつ、産業のまちと住むまちという連携を取れば面白いのではないかと、現実味があるのではないかと思います。</p> |
| 会長           | <p>ありがとうございます。</p> <p>他の委員から、これについてでも結構ですし、他にもありますでしょうか。</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
| 馬場委員         | <p>広島と浜田を結ぶというのは、とても大事なことだと思っておりますし、自然災害時の人口集中圏域から検討するという事で、山陰は有利ではないかと考えています。今の話を聞いたら少し乗られるのかなと、大いに期待したいと思います。中々夢のある話が出来ませんが、こういった話を伺うと、浜田が人口6万人、7万人を目指せるのではないかとという夢も膨らみます。</p>   |
| 会長           | <p>総合振興計画の中で、そういった計画をどこまでできるのか分かりませんが、皆さんもぜひアイデアを出していただけたらと思います。</p>   |
| 佐々木 重盛<br>委員 | <p>色々お聞きしてかなり勉強と言いますか、再認識したことが多分にあります。例えばキャッチフレーズや施策のところでも少し感じたことですが、人口ではU・Iターンなど、それも非常に重要だと思っておりますが、今浜田に住んでいる一人として、今住んでいる人の気持ち、これから浜田市に生まれ育つ子どもたち、この若い世代が地元に残って活躍できる、色々職業のことなどあると思いますが、そういった今から生まれる人たち、住んでいる人たち、やはりここが重点の一つかと思っております。あまり外の方に傾き過ぎると、今いる人たちからは高い評価はいただけないのかと感じました。</p>  |
| 会長           | <p>同じような議論が前回に審議会でもございまして、今ここに生まれ育っている人たち、これから生まれてくる子どもたちが住み続けられるということも重要だという認識を持っております。</p> <p>その他にいかがでしょうか。</p> <p>(質問等なし)</p> <p>それでは、色々な具体的なお提案も他にもあろうかと思っておりますが、総合振興計画という計画の性格上、抽象、具体のレベルで非常に難しいところがあるかと思っておりますが、できるだけ反映していけたらと思います。</p> <p>⑦の項目としてデザイン、活用方法ということですが、この件についていかがでしょうか。デザインについては分かりやすいものといった意見が多いと思いますが、活用方法についてさらにご意見等がございましたら仰っていただけたらと思います。</p>  |
| 佐々木 玲慈<br>委員 | <p>この冊子の発行部数はどれくらいで、誰が一番手にして何に使うために作るのか、どういう配り方をするのか。ターゲットによって見る人が手を出すようなデザインかなと思います。</p>  |
| 企画係長         | <p>今の計画書の発行部数は、計画書本編が1,200部で、概要版は28,000部刷り、概要版は全戸配布させていただきました。このため、概要版は世帯に見てもらえる機会がありますが、本編は知らない部分がたくさんあると思っております。</p> <p>どなたを対象にし、どなたに見てもらえるために策定するのと言うと、やはり市民の方ということになります。人口減少対策としても取り組んでいますので、人を呼び込む取り組みを行うことで、移住者もターゲットの一つですので、外部に対しても浜田市は面白いところだと感じていただける計画書にしたいという思いもあります。また、現在浜田市に住んでいらっしゃる方も当然に対象として考えており、市民の皆さんと一緒にまちづくりに取り組む計画にしたいと思っております。</p> <p>デザインは、その対象・ターゲットというところを想定し、皆さんのご意見もいただきながら考えたいと思っております。</p> |
| 会長           | <p>多くの方に目を通していただきたいと思う一方で、現実では難しいところもあるかと思っておりますが、概要版が大事になってくるかと思っております。</p> <p>活用方法についてもご意見はいかがでしょうか。</p>   |

|  |   |
|--|---|
| 村井委員   | <p>概要版が家に送られてきましたが、それを見て自分がこれをどう活用しようというのは中々正直いって難しいと思います。おそらく3分の2の方は見ずに、そのまま綴じかどここにいつてしまう気がします。</p> <p>これを小さな単位で出前講座をしていただけると、概要版を活用して自治会などで、小さなことでも取り上げて、色んなことを地域で自分たちの力を発揮できる、行政に発信できることもあるのではないかと思います。</p> <p>ですので、概要版を一人で見てもたぶん理解できないし、高齢者はもっと分からない、それを町内会や自治会単位でもいいから、説明していただける場があれば一人でも多くの方が浜田市に協力しようとか、浜田市のために動いてみようとか、地域のために頑張ってみようかとなると思いました。</p> <p>できれば出前講座をしていただければいいのではないかと思います。</p>  |
| 会長   | <p>作るだけではなく説明をとということですが、ぜひ検討いただけたらと思います。その他よろしいでしょうか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>そうしますと、この場では中々お伝えにくいところもあるかと思いますが、お気づきの点は事務局にお知らせいただくとして、そろそろまとめをさせていただきたいと思います。</p> <p>意見交換の部分では、計画の構成についてはあまりご意見が出ませんでした。先程は基本構想の骨子案についてご意見をいただいたところです。</p> <p>今日は、この方向性を出すということが宿題になっていますので、特に「定住」が項目として立っていないという議論はありましたが、そこは各施策大綱にしっかり書き込んでいく、あるいはその他の形でしっかりアピールをしていくというご理解をいただいたということで、7つの部門の「まちづくり大綱」の骨格についてはご了解いただけたと思っておりますが、今後、執行部がこれを基に計画の中身を作成していくと伺っております。</p> <p>本日のところでは、この骨格で今後の作業を進めていってよろしいか、ということをお諮りしたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは、異議はないということで、この内容をベースに作業を進めていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>ここで、5分間の休憩をとらせていただきます。また、執行部の一部の方は、別会議のため退席されますので、ご了承をお願いします。</p> <p>なお、再開は、4時35分とさせていただきます。</p> <p>(休憩)</p> |
| <p><b>3 その他</b> <span style="float: right;">(午後4時35分再開)</span></p> |   |
| <p><b>(1) 第4回審議会の開催日程について</b></p>                                  |   |
| 会長   | <p>再開します。続きまして、「3 その他」に移ります。</p> <p>(1) 第4回審議会の開催日程について、事務局から説明をお願いします。あわせて、第5回の開催日程案があれば、一緒に説明をお願いします。</p>   |
| 企画係長   | <p>(第4回、第5回審議会の開催について提案)</p> <p>第4回 日時 7月29日(水) 午後6時～午後8時(2時間)</p> <p>第5回 日時 8月20日(木) 午後6時～午後8時(2時間)</p> <p>(市議会との意見交換会についてお知らせ)</p> <p>開催案 日時 7月17日(金) 午前10時～午前12時</p> <p>場所 浜田市役所〔5階〕 全員協議会室</p>  |

|                 |   |
|-----------------|---|
| 会長              | <p>只今、第4回、第5回の開催日程を提案いただきました。</p> <p>よろしければ、第4回は7月29日(水)午後6時から予定し、また、第5回は8月20日(木)午後6時から予定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>今後の展望ということで、第4回、第5回の審議会の内容についてイメージを教えていただけたらと思います。</p>  |
| 企画係長            | <p>第4回では、今日の基本構想の骨子案に基づいて少し肉付けをし、タイトルなどの中身を提示したいと思います。あわせて、基本計画の骨子の作成も取り掛かって、その骨子について第4回で頭出ししたいと思います。</p> <p>第5回では、基本計画の骨子案についてご審議いただきたいと思います。そして、市議会からの意見も踏まえて、作業を進めるよう予定しています。</p>  |
| 会長              | <p>市議会との意見交換会については、私たちとの関わり方はどうなるのかと思いますが、執行部と市議会との意見交換会という理解でよろしいでしょうか。それを私たちも聞かせていただくことができるということでしょうか。</p>  |
| 企画係長            | <p>執行部と市議会との意見交換です。傍聴は可能だと思います。</p>   |
| 会長              | <p>傍聴も可能と思われるということなので、お出かけいただければと思います。その他、ご質問等はございませんでしょうか。</p>   |
| 栗栖委員            | <p>これからのスケジュールですが、これから地域協議会で自治区のことについて協議をして参ることになるかと思っております。それがいつの段階で、自治区の振興計画なるものがお示ししていただけるのでしょうか。</p> <p>我々も近々地域協議会を開いて、振興計画について皆様方と協議をしていかなければいけないと思っております。その協議したものは、この会のいつの段階までにお示しさせていただいて、皆様方のご了解が得られるのか、これから先の自治区関係のことでお聞かせいただけたらと思います。</p>   |
| 地域政策部長          | <p>自治区別の計画は、前期基本計画の中に盛り込む予定で、まずは基本構想が固まってから、前期基本計画の中で自治区の計画を作るという作業になります。</p> <p>当面は、議会の皆さんと7月17日に今日お示した内容等で基本構想について議員の皆さんと意見交換を行います。</p> <p>また、順番とか「建設」とか言葉は、必要であれば修正してお出しして、また議会で修正意見があれば、それを踏まえたもので7月29日の第4回審議会にお諮りしていきます。</p> <p>地域協議会には、その議論がある程度見えてきましたら、支所を通じて自治区の計画の議論をするということになります。白紙の段階で地域協議会の皆さんの意見をいただくのではなく、ある程度、執行部が提示してご意見をいただいて直すというやり方で、コンクリートしたものではなく、ロードマップなどを踏まえて支所からご提案させていただくことと思いますので、7月の第4回審議会が終わった頃から作業に入らせていただき、当然そのままだったものは審議会でご審議いただきたいと思います。</p> |
| <b>(2) 事務連絡</b> |   |
| 会長              | <p>続きまして、(2) 事務連絡を事務局からお願いします。</p>  |
| 地域プロジェクト推進室長    | <p>資料6をご覧ください。前回の審議会でも、若い人たちの意見を聞くために、市内の中学生や高校生にアンケート調査を実施したいと申し上げました。7月6日辺りから、市内の中学3年生の約450人と、高校3年生を対象とし、市内の県立高校と市外に出ている子どもさんも含めて調査に協力してもらい、その結果を7月末までにまとめるスケジュールを進めたいと思います。</p>  |

|                |   |
|----------------|---|
|                | <p>調査内容については、今の浜田を好きだと思ってくれているかどうか、あるいは浜田市の好きなところや、好きではないなというところも挙げてもらおうかと思っています。それと、どんな浜田市に住みたいか、ということも尋ねてみたいと思います。今後、浜田市で働きたいか、一度出ていってもまた戻ってきて働きたいという思いがあるか、ということも聞いてみようと思います。</p> <p>それから将来、今の子どもたちが幸せな家庭を持って結婚したいと思っているかどうか、ということも聞いてみたいと思っております。</p> <p>どういうところで働きたいかということは、全国的な集計でも出ておりますので、そういうものも参考にさせていただいて、今の子どもとたちの思いまづは聞くということ、そういう観点を主体に、先ほど申し上げましたように、中学3年、高校3年の子どもたちにアンケートを実施します。</p> <p>結果は、7月末くらいにはまとめて、お示ししたいと思います。</p> |
| 企画係員           | (委員報酬等の支払いについてお知らせ)   |
| ◆ 閉会 (午後4時50分) |   |
| 会長             | <p>それでは、以上をもちまして、第3回審議会を終了いたします。</p> <p>お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。</p>  |

(午後4時50分閉会、所要時間2時間50分)